



# 桂川っ子

VOL.33



## 手本となる大人の姿

桂川町教育委員会

教育長 穂坂 和義

前号では「子ども社会に見られる様々な現象は、すべて大人社会を反映してのもの」ということを述べました。

昨今、子どもの基本的生活習慣の乱れや社会ルール・モラル（規範意識）に反する行為はたびたび指摘されているところですが。

ところが、信頼できるある国立行政機構の調査によると、近所の人にあいさつする、買い物や掃除などのお手伝いをする、自分で布団の上げ下ろしをするといった基本的生活習慣を身につけている子どもの割合は、十年前と比べて大きく増えているということですが。さらに、まわりの人に迷惑をかける、ルールを守って行動する、体の不自由な人やお年寄りに席を譲るなどの自立的行動習慣も向上してきているらしいのです。

では、子どもたちと比べて保護者の方

はどのようなのでしょうか。実は、前記の基本的生活習慣や自立的行動習慣に関するしつけは、すべての項目で逆に緩くなっているという結果が出ています。

多くの大人が、社会全体のモラルの低下や人々の意識（考え方）に課題を感じ、少年非行に影響を及ぼす社会風潮に心を痛めていると言われています。しかし、このような分析結果を見る限りでは、モラルの低下などは、子どもたちよりむしろ嘆いている大人側に問題があると言えそうです。

教育力向上福岡県民運動のリーフレット第十五号には、大人が子どもの手本になっていることを意識し、大人がやるべきこととして次の五項目を示しています。お互い心がけたいものです。

- ① 「自分さえよければよい」という行動を振り返り、改める
- ② 「これくらい」、「みんなもやってるから」に流されない
- ③ あいさつや言葉遣いを大切にすること
- ④ 人を批判することを控え、尊重すること
- ⑤ 地域の子どもに声をかける、教える

## 新年あけましておめでとうっ子こます

桂川東小学校校長 田島久美子

新しい年が暮をあげました。冬休みの間、子どもたちは、始業式で仲間に見える日を心待ちにしていることでしょう。

先月、65カ国の15歳、約47万人が参加した「生徒の学習到達度調査」(PISA)の国際比較の結果で、日本の子どもたちの学力が、文章やグラフの内容を読み取る読解力で向上したという嬉しいニュースが流れていました。国語の読解力は8位でした。

読み取る力・自分の考えを述べる力はすべての学習の基盤です。桂川東小学校では、朝の15分間を使って国語の力を鍛えています。

読む力については、図書室はもちろん、各教室や廊下など、子どもたちの手の届くところに、たくさんの子どもの読書環境を整えています。給食が早く終わったときや、休み時間など子どもたちはごく自然に本に親しんでいます。

一方、毎月、地域の図書ボランティアの皆様にご協力いただき、読ませたいです。この読み聞かせでは、教師とは違う声の質・響き・雰囲気の中で、子ども

たちはお話の世界に存分に浸っています。

「お話おもしろかった！」

「今度は何の話かな？ 楽しみ！」

子どもたちの幸せそうな表情に、地域の方々の温かさや豊かさを感じ取っていることが読み取れます。

桂川東小では、本好きな子、国語を大切にしている子が確かに育っています。これが、読解力の向上につながっていることを考えると嬉しくなります。

3学期は1年間のまとめ、しっかりとめあげていきます。

本年も子どもたちへの皆さまの温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

